

ウィズコロナ時代の日米教育交流及び英語教育の展望

Prospects for U.S.-Japan Educational Exchange and English Language Education in an Era of Living with COVID

世界的なパンデミックは日米の草の根の交流にも壊滅的な影響をもたらした。特に我が国の水際措置を踏まえた、JETプログラムの参加者の出発延期や各種留学プログラムの延期・中止が与えた教育面での影響は計り知れない。

本講演では、水際措置がもたらした様々な影響や日本語教育関係者との緊密な連携、水際措置の緩和以降のアメリカにおける学生等の実態に言及しつつ、日米の学生交流の今後について考察する。

また、日本の多くの学校の英語教育において重要な役割を果たしているJETプログラムについて、実務担当者の視点からアメリカにおける実情を紹介すると共に、JETプログラム参加者を含むALTに期待されることや、新学習指導要領における英語教育の展望について述べる。



金城 太一 (かねしろ たいち)

在米日本国大使館参事官 (教育担当)

2002年に文部科学省に入省後、初等中等教育局、高等教育局、文化庁、(独)日本学生支援機構への出向等を経験した後、鹿児島県教育庁義務教育課長、初等中等教育局教育課程課課長補佐、同局外国語教育推進室室長(高等学校外国語の学習指導要領改訂を担当)、浮島智子文部科学副大臣秘書官、総合教育政策局専修学校教育振興室長を経て2021年8月より現職。

著書:「チーム鹿児島!教育改革の挑戦」(悠光堂)、「実践!新学習指導要領 基礎が分かる外国語活動・外国語科の授業」(共著:東洋館出版社)。